

平成27年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- ・偏差値を知識・活用別に見ると、知識は50を上回ったが、活用はわずかに50に届かなかった。全体の偏差値は、昨年度よりも下がった。

偏差値	小学校国語		
	知識	活用	全体
国東市	50.6	49.8	50.5

- ・領域別では「話すこと・聞くこと」のみ目標値に届いていないが、他の領域は目標値を上回っている。
- ・領域別の偏差値を見ると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題があるとみられる。
- ・問いの内容別に見ると、「話し合いの内容を聞き取る」「説明文の内容を読み取る」において正答率が目標値に届いていないが、他の内容では目標値を上回っている。

領域別の正答率と偏差値

領域	正答率		偏差値
	国東市	目標値	
話すこと 聞くこと	67.6	68.3	47.9
書くこと	64.0	61.3	51.1
読むこと	65.0	64.4	49.3
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	78.3	72.1	51.7

※目標値と偏差値50に達していない項目に網かけ

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 話すこと・聞くこと (1)

①話し方の工夫に気をつけて聞く。(1)(2)

(正答率 75.0%・目標値 80.0%)【知識】

- ・話し方の工夫を判断する力をつけるには、ある程度まとまった内容について、話したり聞いたりする学習が効果的である。また、話し合い活動等で事前に「話す」「聞く」時の視点を指導しておくことが必要である。(例 「理由の言い方や複数ある場合の言い方」「賛成・反対の立場を明らかに」「付け足しの言い方」など)

②互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合おうとする。(1)(3)

(正答率 32.4%・目標値 35.0%)【活用】

- ・昨年度に引き続き、話の内容は理解できているが聞いた内容全体をどのように整理し判断するかに課題が見られた。話し合い、スピーチや発表等の場面で、話を聞きながら話の中心や意図、話し手の挙げている事例や理由、相手と自分の意見の相違点と共通点などをメモしてまとめる学習活動を行うことが求められる。

(2) 読むこと (4 物語文 5 説明文 ※いずれも無解答率0%)

①登場人物の気持ちを読み取る。(4)(2)

(正答率 77.0%・目標値 80.0%)【知識】

- ・「誰の、どんな気持ちを含んだ会話文なのか」を正確に読み取る必要がある問いであった。多かった誤答は、感心したのは「ようすけ」であるのに「父」のセリフ部分から選択したものであった。
- ・登場人物の気持ちを読み取るには、まず物語の設定や登場人物の関係、場面の状況などをつかむ。そして、会話文や気持ちを表す言葉などの叙述をもとに、登場人物の様子や気持ちを丁寧に読んでいくことが大切である。必要に応じて叙述に立ち返り細部を読んでいく言語活動が求められる。

②文章の内容を的確に読み取る。(5)(1)(2)

- 【5】(1) 正答率 67.2%・目標値 70.0% 【知識】 【5】(1)(2) 正答率 53.4%・目標値 60.0% 【知識】
- ・この【5】に特徴的だったのは選択肢である。(1)の選択肢を見ると、使われている言葉はほぼ同じで語順を入れかえて作成されている。正答を判断する際に、「何が」「どうする」の主語・述語の関係を理解して選択肢内容を吟味することが必要であった。また(2)においては、主語は全て同じであるが、主語以下は本文中の言葉を引用している。全体の内容理解ができているならば正答がわかるが、目についた部分のみにとらわれると誤答を選択してしまうと考えられる。
- ・挙げられた事実や例等との関連から筆者の意図を捉える力を付けていかなければならない。また、選択肢の吟味についても、あまり時間をかけずに判断できる力をつけたい。

③段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る。【5】(3))

(正答率 40.7%・目標値 45.0%) 【知識】

- ・説明的文章の段落相互の関係を捉えたり、まとまった分量の文章について話題を捉えたりする力が必要となる。キーワードを見つける、要約する、小見出し・大見出しを付ける、接続詞などに注意する、全体構成を考えるなどが盛り込まれた言語活動の経験を通して付けたい力である。言語活動例としては「イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること」等を参考にしたい。

※「読むこと」については、単元を貫く言語活動を行わせるだけでなく、付けたい力がついているのか、付いていなければどのような手立てをとるのか、きめ細かい指導が不可欠である。

(3) 言語の特質に関する事項について

①漢字を書く。【2】(2) ①せつきよく的

(正答率 44.1%・目標値 50.0%) 【知識】

- ・「積極」とも正しい・・・ 44.1%○
- ・「積」のみ正しい・・・ 6.9%
- ・「極」のみ正しい・・・ 16.2%
- ・上記以外の解答・・・ 14.7%
- ・無解答・・・ 18.1%

②文の構成(連用修飾語)について理解する。

【3】(2)「九時に」はどの言葉を修飾しているか。

(正答率 29.9%・目標値 40.0%) 【知識】

- ・校庭で・・・ 21.6%
- ・運動会の・・・ 11.3%
- ・開会式が・・・ 36.8%
- ・始まります・・・ 29.9%○
- ・無解答・・・ 0.5%

- ・国語の特質に関する事項については、言語活動を行う中で指導する他、取り立てて指導することも有効である。
- ・漢字や文法については、繰り返し学習することで定着度が上がる。繰り返し学習できる環境を学校全体(家庭学習も含む)で整えることが大切である。

3 指導の改善のポイント(全体を通して)

(1) 単元を貫く言語活動を設定した授業づくり

- ・国語科は付けたい力をただ教えるのではなく、言語活動を通して指導事項を指導し、付けたい力を付けていく教科である。そのため、基礎基本の積み上げだけでは活用する力は高まらない。今後とも、単元を貫く言語活動を設定した授業実践の一層の充実が必要である。
- ・単元を構想する際、付けたい力とそれにふさわしい言語活動、教材はどのようなものを適切に判断することが求められる。そのために、
 - ①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること
 - ②学習指導要領の言語活動例の確認をすること
 の2点については年度が始まるまでに行っておく必要がある。
- ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」を参考にすることも非常に有効である。

(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・必要な情報を素早く見つける読み方や、必要な部分のみを詳細に分析する読み方等を経験させるような指導が大切である。

- ・目的に応じた読み方を身に付けさせるために、新聞、記録文、リーフレット、パンフレット、説明書等、多様な資料を扱うような活動の充実を図ることが求められる。

質問紙 「あなたはこの1ヶ月の間に本を何冊くらい読みましたか。」(単位は%)										
	0冊	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10	11～20	21～30	31以上	その他
全国	5.3	17.3	19.7	16.4	11.1	11.3	9.8	4.1	4.7	0.2
大分県	9.1	16.4	15.5	12.2	8.3	11.5	10.3	5.7	10.6	0.3
国東市	5.9	14.2	14.2	21.1	8.3	6.9	11.3	6.9	11.3	0.0

- ・質問紙からは、1ヶ月で1冊も本を読まない児童の割合は全国より若干多いが、11冊以上読んでいる多読の児童も多く3割ほどいることがわかった。「漢字の読み」や語彙量に課題が見られる児童、まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、本の種類や内容についての指導も必要である。
- ・不読者をゼロに近づけ、より一層本に慣れ親しませるために、一斉読書や教科の授業中に図書館の利活用を推進していくことが大切である。

(3) 「めあて」の設定や指導に生かすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準「B 概ね満足できる状況」を設定する。そして、この具体的な評価基準から本時のめあてを設定していくことが求められる。
- ・また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。

(4) 国語科授業で取り組むべきこと

- ・様々な言語活動や場面を利用して、記述する力を高める。知識の定着と活用力の育成には「記述する」ことが不可欠である。記述の指導は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要である。また、条件や目的、字数や時間等に応じて書く力も付けていかなければならない。
- ・考えを深めたり広げたりする「交流」の場면을単元の中に効果的に位置付ける。
 - 例 ・文章を下学年の人にわかるように説明する。
 - ・書かれていることを図や表にまとめて、それを用いて人に説明する。
 - ・多くの友だちから多様な考えを聞き、自分の考えに生かす。
- ・学習用語の確実な定着を重視する。教科書の巻頭・巻末等にまとめられている学習用語は、その学年で確実に指導することが大切で、一度学習した用語は授業で使う。指導者があいまいな言葉を使わない。

(5) 学校全体で取り組むべきこと

- ・漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えたり、国語科だけでなく各教科のノートや家庭学習等、様々な場面で指導したりすることが望まれる。
- ・全校一斉読書や各教科及び領域において学校図書館を利活用していく。また、学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる(例 各新聞社から配信されているワークシートを短時間で行う等)。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。
- ・「国語科データベース」や県「フォローアップシート」、くにさき地区研作成「フォローアップシート」等を効果的に活用する。